基本理念

一、私たちは〝地域医療支援病院〟として、医師会会員ならびに各医療機関との医療連携をもとに、高い医療レベルを堅持、地域医療の向上に貢献します

二、私たちは患者の立場を尊重し、その信頼と期待に応え、誠実に〝心ある医療〟を心がけます

三、私たちは、変革する医療情勢に対処しながら、地域住民の福祉・保健医療サービスの確立に努め、医療センター内外に積極的に活動します

四、私たちは、職員としての〝誇りと責任〟を自覚し、つねに自己研鑽を重ね、互いに協力して、医療センターの発展に努めます

医の心

患者さんの悩み、苦しみ、痛みに共感する心

患者さんに慰めの手、いたわりの手が自然に出る心

患者さんのために尽くす心

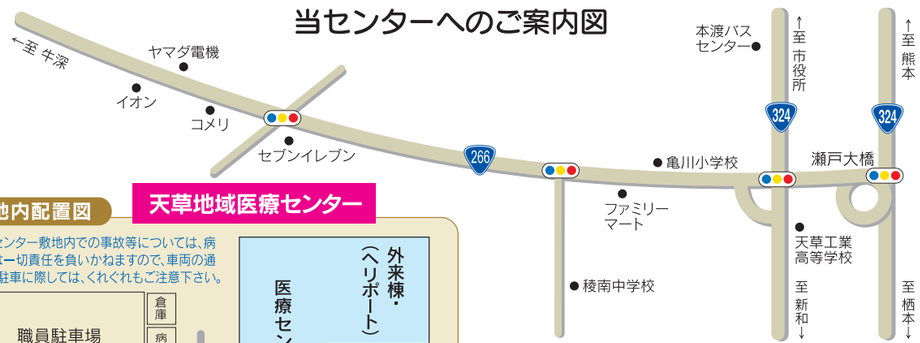
患者さんに真実を伝えて納得同意を得るように努める心

外来診療一覧表

平成29年6月現在

	診療科目	月	火	水	木	金	受付時間
一般外来	脳神経外科	植村・等			植村・等		7:30～11:30 ※急患については24時間対応
	外　科		原田・吉仲・髙田			原田・吉仲・髙田	
	整形外科	大江・堀内		堀内・前川		大江・山田	
	循環器科	境野		境野・中村		境野	
	消化器内科			坂井	平岡・松下		
	代謝内科	平島		平島	平島		
	放射線科		吉田				
	泌尿器科	山中	脊川				
小児科外来	小　児　科	塵岡 野中	渡邉	塵岡 野中	野中	塵岡 渡邉	8:00～11:30 13:45～16:00 ※急患については24時間対応
特殊外来	呼吸器内科	毎週　金曜日[9:00～15:00] 済生会より					8:00～11:30 予約制
	神経内科	月　4　回　土曜日					
	リウマチ膠原病科	月1～2回　土曜日					
	消化器内科	月　2　回　土曜日					
	パーキンソン外来	月　1　回　土曜日（再診のみ）　後藤					

当センターへのご案内図



敷地内配置図

天草地域医療センター

当センター敷地内での事故等については、病院は一切責任を負いかねますので、車両の通行・駐車に際しては、くれぐれもご注意下さい。



一般社団法人　天草郡市医師会立

天草地域医療センター

院長　原田　和則

〒863-0046 熊本県天草市亀場町食場854番地1

TEL 0969-24-4111（代表）

FAX 0969-23-4086　URL http://www.amed.jp

天草地域医療センター広報誌

あまいせ便り

2017.Jun

vol. 9

【編集・発行】
天草地域
医療センター
新聞広報委員会





華やかな季節もあっという間に…



雨の中でも
凛とした姿の
崎津教会

ごあいさつ

院　長　原田　和則

先日、天草地方災害対策会議及び水防連絡会議という災害対策の会議に出席しました。その折、気象庁からは熊本県の梅雨の特徴について、①年間降水量に占める梅雨期間降水量が他の地域に比べ多い、②熊本では梅雨の中頃（7月はじめ頃）に大雨が多い、③近年、短時間の強い雨が増える傾向にある。との指摘がされました。昨年は熊本地震や大雨などの試練を受けた熊本ですが、本年の梅雨の雨量も例年並みかそれ以上とのことです。大雨による河川の氾濫や土砂崩れなどに、しっかりとした心構えと対策が必要なようです。



院長室にも（9頁参照）
「静寂の庭」Dainty Bess

医療と介護の領域でも近年の少子高齢化の流れのなかで、在宅医療や介護などを包括した、より良い地域社会の構築などの対策が必要とされています。とくに天草は、以前から高齢化率の高い地域であり、さらには地理的な要因として遠隔地医療としての課題もあり、これらを踏まえた取り組みが急務です。当センターは地域医療支援病院、小児救急医療拠点病院、がん診療連携拠点病院（県指定）、脳卒中急性期拠点病院、急性心筋梗塞急性期拠点病院など、天草の急性期医療を担う中核病院として、住民の方々の健康と命を守る責務を果たしてまいりました。これら急性期疾患や重症で入院治療を受けられる方の多くはご高齢であり、急性期医療の長期化、ADL(日常生活動作、日常生活活動など)の回復の遅れ、急性期のリハビリテーションが必要な方がますます増えてきておられます。この様な観点から、本号の記事にもありますように「地域包括ケア病棟」の導入に向けて具体的に準備しているところです。

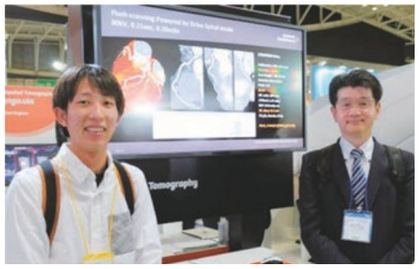
地域における医療人材の不足は、地域医療再生、ことに天草地域の医療発展の観点からも重要な課題です。当センターでは新年度の４月には、お陰様で30名近くの新しい仲間を迎えることが出来ました。彼らが明るく前向きに力を合わせて、地域医療のために頑張ってくれることを期待しています。医師に関しては医学部の学生教育、若手医師の研修にはかねてから力を注いできております。熊本大学医学部学生の臨床実習を多く受けいれており、「基幹型臨床研修病院」としても今年度4月から４名の新進気鋭の初期臨床医が赴任しています。当院の臨床研修の特徴は、研修医を単独診療科のみではなく、全診療科一体となって教育することを基本方針としており、実際の診療においても各診療科の協力体制が極めて良好で、つねに「地域完結型医療」を原則として実践してきています。その意味でも2025年問題に代表される地域医療の抱える医療や福祉の問題を肌で感じとってもらえるような「総合診療医」育成の場として、しっかりとその責務を果たしていく所存でおります。

今後もみなさまにやさしく愛される、質の高い医療を提供出来る施設として、天草の地方創生にも貢献させていただく覚悟です。より一層のご支援よろしくお願い申し上げます。

国内１号機：最新２管球ＣＴの実力

放射線技師長　緒方　隆昭

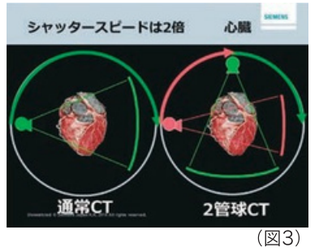

（図1）


（図2）

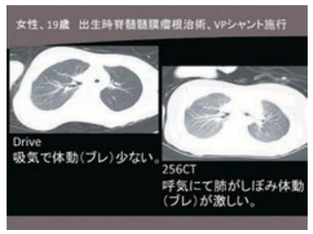
放射線部は、共同利用施設の中央診療部門として医師会員の先生方と院内の各部署職員との協力と連携に支えられ運営させて頂いています。今回は、平成29年2月20日にCT装置を更新しましたので紹介致します。

導入したSIEMENS社製 SOMATOM Drive（図1）は、平成28年8月薬事承認されたばかりで、業務提携契約を結び国内1号機として導入致しました。4月に開催された日本放射線技術学会と同時開催のITEM（2017国際医用画像総合展）においてSIEMENS社ブースのSOMATOM Drive実機展示エリアでの臨床画像のすべては当施設の画像が採用されました（図2）。また、この装置のカタログ臨床画像も当施設の画像が採用予定です。今後も取材や学会発表、講演、メンテナンス製品開発などにおいて継続して協力する予定です。

この装置の特徴ですが、通常CT装置は、1管球の180度回転で1枚の画像が得られます。SOMATOM Drive は、2管球システムCT装置であり90度回転で撮像可能です（図3）。胸部CTを例に挙げると、もう一台の256スライスCT装置も高速撮影が可能と言われていましたが、2～3秒の息止めが最低必要です。SOMATOM Driveでは、0.6秒程度の超高速撮影が可能であり、意思疎通が取れず、静止困難な小児や認知症患者の検査において、息止め不良や体動による画質低下（ブレ）が問題になりません（図4）。

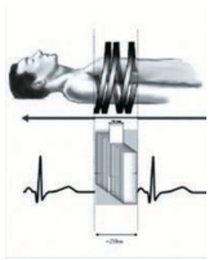


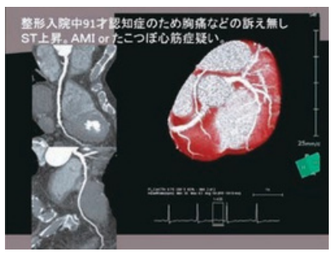
（図3）



（図4）

また、2管球からなる螺旋軌道で，心電同期撮影と併用して，ガントリー回転速度0.28秒との相乗効果で秒間460mmの撮影が可能です。心拍数が60台であれば，心位相の拡張末期のタイミングで撮影することで，息止めなしでも静止した冠動脈3D—CTAが可能です。(図5)

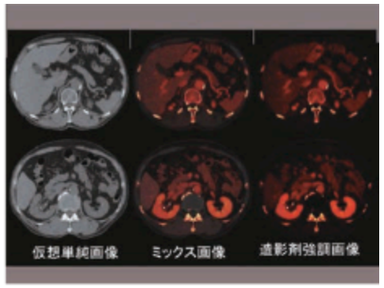

（図5）



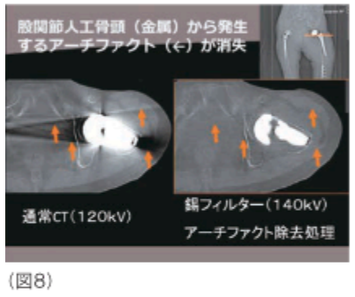
（図6）

91歳男性、認知症の患者で自然呼吸にて心電図同期のみで検査施行。ミオコールスプレー、コアベータ使用。血管の動きによるブレやにじみ、ガタつきなく画質良好。有意狭窄は認められませんでした（図6）。

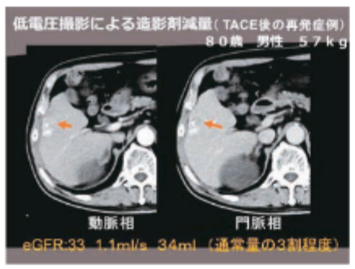
2管球システムのもう一つの特徴は、デュアルエナジーイメージングです。通常CTでは、120kVの管電圧で撮影しますが、低エネルギーから高エネルギーまでのX線が混在した連続X線であり、1種類の平均化したX線画像のみが得られます。デュアルエナジーイメージングは、低エネルギーのX線（80kV）と高エネルギーのX線（錫フィルター付加した140kV）を同時照射し取得した2つのデータを用いて、後処理で40keVから190　keVまでのエネルギー別の画像（仮想単色X線画像）が得られます。2管球モードで撮影しておけば、後から目的に応じたエネルギーレベルで診断可能です。また、物質分別の精度が高いので、その他様々な解析が可能です。尿管結石の成分解析はよく知られていますが、造影剤だけ強調した画像や造影剤を除去した画像(仮想単純画像)（図7）が実臨床において期待されます。



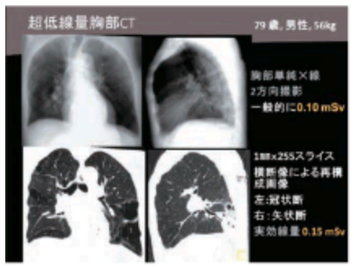
（図7）



（図8）



（図9）



（図10）

また、1管球モードでも錫フィルター付加した140kVの高管電圧撮影とアーチファクト除去処理（iMAR）の組み合わせは、人工関節や脳動脈瘤クリッピングから発生する金属アーチファクト軽減効果が大きく診断能向上が見られ（図8）、造影剤のCT値増強効果が大きい70kV低管電圧撮影では、以前以上に低管電圧撮影が可能となった事で、より造影剤減量の可能が期待されます。（図9）。

被爆低減については、大容量（800mA）X線管球を2基搭載しており、錫フィルター付加100kV撮影では、画質に寄与しない不要なX線除去が可能です。症例は、通常胸部CTの1／30程度の線量で胸部単純X線2方向と同程度の超低線量胸部CTです。（図10）

小児救急拠点病院であり、高齢者の多い天草医療圏の共同利用施設の当施設において、SOMATOM Driveは、日常臨床で問題でありながら半ば諦めていた息止め不良症例や静止困難症例に特に有用性が高く、検査精度向上を実感しています。低管電圧撮影における造影剤減量が可能な事は、腎機能の悪い患者の造影検査適応の拡大や、診断能の向上が見込めます。2カ月使用した印象としてこの装置は、高画質と被ばく低減を両立した優れた装置と言えます。デュアルエナジーイメージングについては、まだ計り知れない潜在能力を有しており、今後継続して有用性について検討を重ねていく所存です。今後とも天草地域医療センター放射線部をよろしくお願い致します。

地域包括ケア病棟導入に向けて

事務部長　野嶋　豊幸

現在、当センターでは急激に変革する医療情勢の中、急性期医療の安定した供給と、その後の急性期リハビリ等を含めた、在宅復帰に向けた医療や支援を目的として「地域包括ケア病棟導入」への取り組みを開始したところです。

「地域包括ケア病棟」には多くの要素、目的がありますが、主には急性期治療を経過し、ある程度病態が軽快した患者様に対して、在宅や介護施設への復帰支援を多職種が協同して行う病棟です。一般的には、急性期病棟で短期的な診療ののち、早期に退院・転院していただくこととなりますが、急性期の長期化や在宅での療養に不安があり、もうしばらくの入院治療で社会復帰等ができる患者様のために当該病棟を導入し、安心して退院していただけるよう支援するものです。ここでは急性期の診療も行いますが、心身が回復するよう医師や看護師、リハビリテーション科の理学療法士、作業療法士等により、在宅復帰に向けて治療・支援を行ってまいります。また、病棟専任の医療ソーシャルワーカーが患者様の退院支援、退院後のケアについてサポートさせていただきます。

正式な運用開始は平成29年7月1日を予定しておりますが、より多くの皆様方のご理解・ご支援を得るため、今回導入を計画した「1.背景・必要性」、ならびに当院での「2.地域包括ケア病棟の役割と位置付け」について掲載させていただきました。ご高配の程、何卒よろしくお願いいたします。

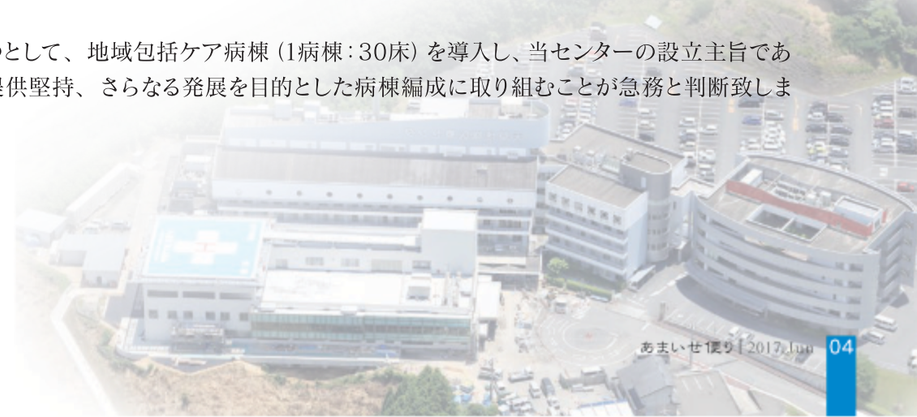
1. 背景・必要性

①人口減少および超高齢化社会に伴う医療ニーズの増大に対し、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援を目的に、全国的にも地域包括ケアシステムの構築が推進されている。
各都道府県の「地域医療構想調整会議」では、2025年の医療供給体制構築に向けた地域医療構想の策定が始まっており、高度急性期、急性期、回復期、慢性期という医療機関ごとの必要病床数と、在宅医療等の供給量などの設定が行われている。

②診療報酬改定においては2025年問題を見据えた政府の施策により、入院医療から在宅医療への誘導が近年色濃く反映され始めている。当センターでも、施設基準の要件厳格化に伴い、全病棟（6病棟：210床）での一般病棟7対1入院基本料の維持が極めて厳しくなっている状況である。（2018年度以降の診療報酬改定では、さらなる厳格化が検討されている）

③天草の特性として急性期疾患や重症で入院治療を受けられる方の多くはご高齢であり、急性期医療の長期化、ADL(日常生活動作、日常生活活動など)の回復の遅れ、急性期のリハビリテーションの必要性などがますます増加している。

これらの打開策の一つとして、地域包括ケア病棟（1病棟：30床）を導入し、当センターの設立主旨である重症、急性期医療の提供堅持、さらなる発展を目的とした病棟編成に取り組むことが急務と判断致しました。



2．地域包括ケア病棟の役割と位置付け



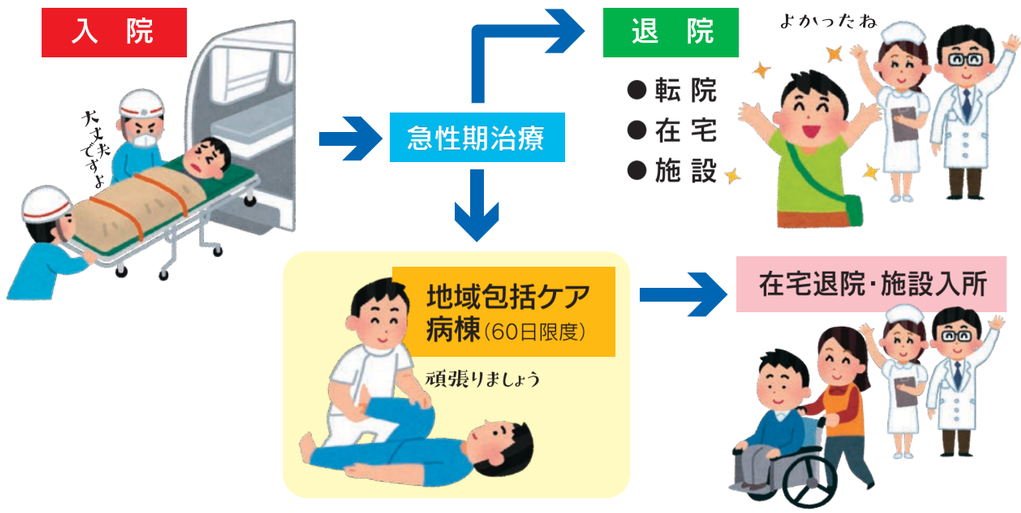
①重症や急性期医療を担う中核病院としての責務を果たし、さらに発展させるためには、充分な医療と看護が提供出来る7：1入院基本料の堅持が不可欠である。そのための病棟再編である。

②急性期治療の長期化、回復の遅れなどの高齢者の特性に配慮しながら、生活機能の向上のために必要な取り組み（リハビリ等を含めた療養の充実）を実施することで、病態の回復ひいては在宅復帰（率）の促進・向上が期待できる。

③治療目的に応じた病棟の再編により、看護師や看護助手などの多職種医療従事者の配置に柔軟性が期待される。入院患者の病態の特性に応じた手厚い診療、看護、リハビリなどが計画的に行われ、より安心・安全な医療につながる。

④当該「地域包括ケア病棟」の多くは、重症や急性期での入院診療の経過からの転棟となることが予想され、他施設の地域包括ケア病棟や療養病棟等と競合することはない。

現在、4月～6月の3ケ月間で、地域包括ケア病棟の届出に必要な病棟運営、リハビリ等の実績を集積し、7月1日付の承認・開始に向けて病院全体で一丸となって取り組んでいるところです。医師会会員の先生方はじめ関係各方面の皆様には、何卒ご理解ご支援の程よろしくお願いいたします。なお、正式に「地域包括ケア病棟」が稼働開始する際には、改めてご案内を差し上げる予定としております。

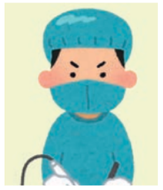


お世話になりました



外　科
坂本　悠樹

平成28年4月より天草地域医療センター所属となり、あっという間の1年間でした。経験も浅く未熟だったにも関わらず、病院スタッフの方々・開業医の先生方のお力添えのおかげで本当に楽しく仕事をさせて頂きました。ご迷惑を掛けてばかりの1年間でしたが、また天草に戻って来られた際には少しでも恩返しができるよう、これからも研鑽を積んで参りたいと思います。1年間大変お世話になりました、有難うございました。



脳外科
竹島　裕貴

1年間大変お世話になりました。脳外科に入局して初めての関連病院勤務でしたので、到らないところもたくさんありましたが、とても充実した時間を過ごすことができました。植村先生・等先生はじめ、たくさんの先生方・スタッフの方々に感謝申し上げます。仕事以外では、新鮮で美味しい魚（特にうに！）ときれいな海が特に深く印象に残っています。

4月から済生会熊本病院に異動となります。さみしい気持ちもありますが、成長して天草に恩返しができるようがんばってきます。今後とも御指導・御鞭撻のほどよろしくお願いします。



放射線科
横山　公一

今年の3月で退職することとなりました、放射線科の横山です。2014年4月に当院へ赴任してからの3年間、CTやMRIの読影、IVRなど多くの症例を経験させていただきました。また、救外当直の際には多くの先生方に助けていただきながら、何とか職務をこなすことができました。ありがとうございました。4月から熊本赤十字病院に勤務することとなります。天草生活も3年に及び、愛着もわいたところでの異動となり、若干寂しい気持ちもありますが、新しい環境でもがんばっていきたいと思います。
3年間ありがとうございました。



呼吸器内科
横山　晃子

この度、主人の異動に伴い天草地域医療センターを退職することとなりました。

ひとり診療科で子育てと両立しながらという状況の中、1年3ヶ月やってこられたのは地域医療センターの先生方やスタッフの皆様、開業医の先生方、患者さんのご協力があってこそだと実感しております。至らない点も多々あり、申し訳ありませんでした。

今後は熊本市内で仕事を続けていく予定です。地域医療センターで学んだことを生かして、これからも日々精進していきたいと思います。本当にありがとうございました。



小児科
柳邊　秀一

小児科の柳邊秀一です。2年間という短い期間ではありましたが、地域の皆様、各科の先生方、コメディカルの方々、大変お世話になりました。まだまだ未熟者ですが、支えられて2年間を無事に終えることが出来ました。4月からは熊本赤十字病院で勤務することになり、忙しくなるとは思いますが、天草での経験を生かして頑張りたいと思います。どうもありがとうございました。



研修医
谷村　俊太郎

熊本大学医学部附属病院の研修プログラムにて、1年間当院で研修させていただきました。久しぶりの研修医であったためか、最初は自分の立ち位置に困ることもありましたが、スタッフの方々に支えられながら楽しく仕事ができました。自分が描いていた研修生活以上に充実した時間を過ごせました。

4月からは熊本大学の整形外科に入局しますが、ここで教わったことを忘れず、努力を重ねて、いつかは恩返しができればと思います。1年間有り難うございました。



代謝内科　古賀　直子
平成29年3月退任

よろしくお願いします



放射線科
田上　昇太
（平成21年卒）

本年4月より放射線科医師として赴任しました、田上昇太と申します。医師としては9年目で、まだ診断専門医を取得したばかりではありますが、皆様のお力を借りながら画像診断やIVRの更なる研鑽を積んでいきたいと思います。天草地域医療センターでは今春より最新鋭装置であるDual source CTが導入されており、最新の技術を地域の皆様に還元できるよう、臨床に研究に励んでいきますので、何卒宜しくお願い致します。



小児科
野中　俊彦
（平成23年卒）

4月から小児科で勤務することになりました。出身は苓北町で、幼い時はよく風邪をひいて天草の小児科の先生方にお世話になりました。大学卒業後7年目になりますが、生後5ヶ月になる娘の子育てをしながら、その成長から色々と学んでいるところです。小児科医としてもまだまだ未熟で、皆様に迷惑をおかけすることが多いかと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。



研修医
永芳　友
（平成29年卒）

本年4月より、初期研修医として1年間お世話になります。私は天草市出身なので自分の医師としてのキャリアを自分の地元からスタートさせて頂けることをとても嬉しく感じております。至らない点も多々あると思いますが、天草地域の医療状況をしっかり学びたいと考えておりますのでご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。



研修医
永芳　真理子
（平成29年卒）

4月より地域医療センターで初期研修をすることになりました。熊本大学を卒業したばかりで、何もかもが新しい環境となり不安もありましたが、先生方やスタッフの皆様に暖かく迎えていただき充実した日々を送っています。天草でのご縁に感謝して一生懸命頑張りますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。



脳神経外科
末吉　博之
（平成26年卒）

4月より脳神経外科で勤務することになりました。平成28年に熊本大学脳神経外科に入局し、まずは大学で1年間脳腫瘍について学びました。4月から天草に行くと話すと先輩方には、あそこはとても忙しいから頑張ってと口をそろえて言っておりました。実際に働いてみると、大学とは違う忙しさがあり大変充実した毎日を過ごさせて頂きとても勉強になっております。まだまだ未熟で、皆様には多大にご迷惑をおかけするとは思いますが何卒よろしくお願いいたします。



研修医
黒田　庄一郎
（平成29年卒）

4月より天草地域医療センターで臨床研修をさせていただくことになりました。地域医療センターには昨年度の臨床実習で5週間もお世話になりました。そのときに垣根のない医局や病院一丸となったチーム医療を肌で実感し、是非この病院で研修をしたいと思っておりました。医療人、社会人として未熟者ですが精一杯精進していく所存ですので、どうかよろしくお願いいたします。



研修医
坂口　俊史
（平成29年卒）

本年度から天草地域医療センターで研修医としてお世話になる坂口俊史と申します。自然風土豊かで、魚の美味しい天草は自分にとっては天国のような場所で、このような素晴らしい環境で研修を行えることに大変感謝しています。

まだまだ勉強することが多く医局の先生方をはじめ、コメディカルの方には色々とご迷惑をおかけすることと思いますが、これから地域の皆さんのために貢献するべく努力していきますのでご指導のほどよろしくお願いいたします。

言語聴覚士



田中　啓登

小学5年生の時に、私の祖母をきっかけに言語聴覚士を目指す様になりました。現在夢が叶い、一生懸命頑張っています。まだまだ未熟で皆様にご迷惑をお掛けすると思いますが、天草の医療に貢献できる様に頑張りますのでよろしくお願いします。

診療情報管理士



口脇　千菜

社会人1年目で、至らない点が多く、皆様にご迷惑をおかけしますが、地元である天草に貢献できればと思います。精一杯頑張りますので、よろしくお願いいたします。

薬剤師



吉村　美沙希

まだ働き始めて間もなく、わからない事も多いですが、少しでも早く一人前の医療人となれるように先輩方を見習いながら、日々努力していこうと思います。これからよろしくお願いします。

薬剤師



御厨　弘華

苓北町出身で、今年大学を卒業しました。社会人としても薬剤師としてもまだまだ未熟でご迷惑をおかけすると思いますが、少しでも早く一人前の薬剤師になれる様に精一杯頑張ります。これから宜しくお願い致します。

薬剤師



平山　美奈子

高校まで天草で、福岡大学薬学部を卒業し、4月から勤務させて頂いております。日々の薬局内での業務はもちろんのこと、病棟等においても精一杯頑張りたいと思いますので、ご指導よろしくお願いいたします。

事務職



坂本　愛弥香

今年大学を卒業して、総務課で働かせて頂く事になりました。
地元での就職を望んでいたので、とても嬉しいです。少しでも早く仕事を憶えて、皆さまのお役に立てたらと願っております。
宜しくお願い致します。

事務職



梶原　健護

この度、医事課の方で働かせて頂くことになりました。未熟者で分からないことが多く、多々迷惑をかけることがあると思いますが、当センターに貢献できるよう精一杯がんばります。よろしくお願い致します。

看護師



外　来　**坂田　幸美**

天草の出身です。地元で働くのは嬉しさ半分、不安半分ですが、いつも元気・笑顔を心がけ頑張ります。地元の患者様のことを第一に考えた看護をめざしたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

看護師



4階南病棟　**平井　奈々美**

本渡出身で、今までは熊本市内で働いていました。急性期の病棟は初めてなので1日も早く仕事に慣れられるよう精いっぱい頑張ります。ご指導よろしくお願いします。

看護師



4階南病棟　**畑島　尚弥**

天草市の本渡出身で、地元の皆様のために働けることを嬉しく思います。まだまだ未熟者ですが一生懸命勉強し、少しでも患者様やご家族の力になれるような看護師になります。よろしくお願いします。

看護師



3階南病棟　**岩田　奈実**

熊本市内の学校を卒業し、出身である天草に帰ってきました。看護師として、また社会人としても成長できるよう努力していきたいと思います。至らない点も多々あるかと思いますが、ご指導のほど宜しくお願いします。

看護師



3階南病棟　**岡部　由依**

県外で就職していましたが、4月から地元である天草に戻って来ました。慣れない事も多いですが、早く仕事に慣れるために頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

看護師



3階南病棟　**川田　美奈**

県内の大学を卒業し、地元である天草に帰ってきました。大好きな天草で働けることを大変嬉しく思います。患者さんの気持ちに寄り添った看護が提供できるよう、日々努力していきます。よろしくお願いします。

看護師



3階北病棟　**蓮田　南**

16年ぶりに天草に帰って参りました。大変忙しい天草地域医療センターと伺っていますが、早く自立して働けるよう、いつも笑顔を忘れずに頑張りたいと思います。宜しくお願いします。

看護師



3階北病棟　**石田　光**

地元は天草市の本渡で天草地域医療センターで働けることができて、大変嬉しく思います。不安なことばかりですが、日々努力していきたいと思います。よろくお願いします。

看護師



2階病棟　**平井　宏一**

初心だけは忘れず、自分が理想とする看護師に少しでも、1日でも早く近づけるよう精一杯頑張ります。また、人間関係を大事にし、周りから信頼されるように責任ある行動を心がけます。

看護師



2階病棟　**小島　広夢**

地元天草で働くことができることを大変嬉しく思います。患者に寄り添い、患者の立場にたった看護を提供できる看護師を目指し頑張ります。よろしくお願いします。

院内展示絵画について

「 奈良﨑 眞智子展 」



作品名「Season 1」 1F



作品名「Rose」 4F



作品名「Life」 3F

当センターでは以前より、院内の各所に絵画を展示しています。病院という場所はどうしても殺風景になりがちなのですが、絵画を展示することにより明るく温かみのある場所となり、来院される方々の癒しとなればと期待しています。

現在は、天草在住の奈良﨑眞知子様に無理にお願いして7点の作品を、外来診察室前・病棟などに展示させて頂いています。今回の作品は全て「花」をモチーフに描かれており、女性的で可憐な作品もあれば、ダイナミックで力強い作品など、様々な「花」を表現された素敵な「展覧会」となっております。当センターに来院された際には、ぜひご覧下さいませ。

今後も、様々な方に絵画作品を展示いただければと思っております。



作品名「GEORGIA O' KEEFE」 2F



作品名「卓上のバラ」



作品名「ピエールドロンサール」



作品名「イングリッシュローズ」

崎津の街並を歩いてきました

糖尿病ウォークラリー









平成29年4月29日、当センター代謝内科恒例の「糖尿病ウォークラリー」が開催されました。今回は、平成28年7月から世界遺産の国内推薦を受けている「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の一部の「崎津集落（天草市河浦町）」を巡る内容となりました。当日は、朝から霧雨降るあいにくの空模様でしたが、そのおかげで朝霧に浮かぶ崎津教会を見ることができ、幻想的な風景の中でのスタートとなりました。

コースは3つに分かれており、各コースを専門のガイドさん（天草宝島案内人の会）に案内して頂き、崎津教会・崎津諏訪神社・マリア像・旧網本宅等の見学、海岸近くのウォーキング、そして、お昼の休憩時間には、ゲームやクイズ等のレクリエーションも開催され、参加者・スタッフ全員で楽しい時間を過ごすことが出来ました。

天草出身の私ですが、恥ずかしながら崎津集落については、詳しく知らない部分が多々あり、今回のウォークラリーに参加した事により、あらためて崎津集落の歴史に触れる良い機会となりました。

このウォークラリーは、年々参加人数も増え、コース内容も毎年充実しており、何よりも、年齢・体力等に合わせてコースの種類も選択出来ますので、参加者全員が無理なく、楽しむ事が出来るイベントとなっています。

ぜひ、来年は皆様も参加してみられたらいかがでしょうか。

編集後記

ついこの間、満開の桜を眺めたかと思ったら、あっという間に紫陽花の花が咲き、梅雨入りのニュースが流れ始める季節となりました。

先日、久しぶりに熊本城を訪れる機会があったのですが、まだまだ昨年の地震の爪痕が多く残っており、復元出来るまでに約20年という時間がかかるそうです。昨年の熊本地震から1年が過ぎましたが、熊本城をはじめ、県内の至る所に被災した箇所が残っており、復興への道のりはやはり「あっという間」と言うほど簡単にいかないようです。

そして、今回の記事にもありましたように、当センターでは現在、7月1日の運営開始予定に向けて、「地域包括ケア病棟（1病棟　30床）」の準備を進めております。私をはじめ多くの職員にとって、包括ケア病棟の導入は初めての経験となりますので、不慣れな部分もありますが、一人でも多くの患者様のご支援ができればと、病院全体で一丸となって取り組んでいるところですので、ご理解ご支援の程よろしくお願いいたします。

文責：新聞広報委員　清田　千草